



## 深き感謝とともに 新たな時代へ 挑戦します

苫小牧港管理者  
苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧港は世界で初めての本格的な内陸掘込式人造港湾です。勇払原野を掘り込んで造ったこの港湾は、物資や情報が乏しい時代に、ほかの港には有りえない桁外れに壮大な発想と緻密な計画のもと、先人たちが幾多の困難をも乗り越えて造りあげてきたものです。開港50周年の節目の年を迎え、偉業を成し遂げてきた先人の「パワー」を感じ取ることが、今を生きる私たちにとって、非常に大切なことなのだろうとつくづく思っています。

この間の苫小牧を振り返りますと、港の開港以来、港湾貨物取扱量と人口グラフの「上昇カーブ」が一致しています。港があるから企業が立地して物・人が動く。当然のことですが、この上昇カーブが示すことはどういうことでしょうか。歴史的事実を顧みると、これからの30年、50年先も港に活気がある無しによって、まちの「アップ・ダウン」に影響してくることを示しているのではないのでしょうか。港づくりに邁進していた時代とは状況が大きく違いますが、これからの苫小牧の発展、市民の生活を考えたときに、これからの港湾の新たな成長、発展に向けて、同じような「パワー」を注ぐことが必要であると思っています。

昨今の港湾情勢は国内外で激しい競争を繰り広げていますが、港湾と市民生活は密接につながる問題なので、苫小牧港が他者から「選択される」ように、港湾を整備し機能を高めていくと同時に、しっかりとした港湾戦略のもとにポートセールスをしていく必要があります。

今、記念すべき年を迎えて、私たちのまちに発展をもたらす日常生活に非常に関わりが多い、この苫小牧港を25年度に実施する大作戦シリーズ『未来へ！ みなと大作戦 ～Gateway to the future～』を通して、市民のみなさんに身近に感じてもらうと同時に、より港に触れ合う機会が多い1年にしたいと考えています。



## 新たな時代



海道の低迷する経済の打破に直結した問題でもありません。今後めまぐるしく変化する社会・経済情勢を見据え、その役割を果たすべく、次の30年、50年を見据えた新たな港づくりが始まっています。

# 先人たちが幾多の困難をも乗り越え、築き上げてきた「北海道の海の玄関」苫小牧港 未来の北海道、苫小牧の発展のために更なる 一步を力強く歩み始める